

質問は学力になるか？

2022. 5. 3 (火)

質問が自己満足に終わっていないか？

解けない問題というのは、勉強すればするほど出てきます。
参考書の説明を読んでも、あまり理解できません。
塾の先生に教えてもらうことになります。
教えてもらうと「わかったつもり」になります。
塾の先生は”わかるように”教えるからです。指導のプロですから当然です。
「なるほど、そう考えるのか。なっとく！」
ということで、その解けなかった問題は「解けた」ことになります。

解けなかった問題は1週間後には、もう一度解けない！

先生から教えてもらった問題を1週間後にもう一度解いてみて下さい。
「わかったはず」なのに、解けないことに愕然とします。
驚くことはありません、安心して下さい。
解けないことが「フツー」なのです、そんな勉強のしかたでは…

一生懸命に勉強しているのに、なぜ成績があがらないのだろうか？

一生懸命に、一生懸命に勉強しているのに、数学の成績がさっぱりあがらない人というのがあります。少なからずあります。
理由がわからないというのが多くの場合です。
実は、原因は簡単なことです。
上で紹介したような「わかったつもり」症候群に陥っているのです。
「つもり」だけですから、同じ問題でも1週間もすると解けません。解けなくなるのではなく、最初から解けるようにはなっていないのです。

どうするか？

どうしたらいいか、などの一般論を言っても意味ありません。
数専ゼミではどうしているかを紹介します。

質問を受けたら、その質問に生徒自身が答えることができるような基礎資料を与えます。
これを学習し、学び取ってもらいます。資料で理解できない所は教えます。
この段階では、その問題が解けるようになったかどうかはわかりません。
そこで、チェック問題を解かせます。
さらに、その質問の類題、応用問題まで学習させます。

すべての問題を解けるようになるまでやります。
このあとで、質問としてもってきた問題を解かせます。
解けるに決まっています。

教えないと生徒の学力は伸びる！

塾の先生は、質問を教えていないことに気づきましたか。
生徒が自分で学び、自分の力だけで、自分の質問に解けるようになっていきます。

懇切丁寧に生徒の質問を教えている先生がいますが、この方が”生徒受け”しますが、その生徒の学力は絶対に伸びません。
教えなければ、生徒は自分で学びとるしかありません。
自分で学んだ知識は、自分の「知識の網」に有機的に組み込まれますので、活用できる知識（応用力）となります。
指導者の仕事は、生徒自身で学ぶことのできる条件を設定してあげること、そして学習プロセスをプロデュースしてあげることだけです。

指導者の自己満足で教えられた知識は、生徒の右の耳から入って、脳を満足させ、安心させ、左の耳から抜けていきます。

数専ゼミの指導システム

数専ゼミでは、**生徒自身の学び**をアシストするのが生徒を伸ばす指導であると考えます。
だから、学習指導のすべてがこれを指導原理としたシステムでなされています。

学びとる学習システムの数専ゼミの数学教室です。

数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: **(023)633-1086** / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: suusen@seagreen.ocn.ne.jp